

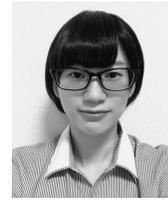


女性技術者の紹介

私、時々定時で帰ります。

株式会社 ニュージェック／都市・地域整備グループ／
設備設計チーム

吉本知美



1. はじめに

最近、国が施策として働き方改革を提言してから、いたるところで「ワークライフバランス」という言葉を耳にするようになった。ワークライフバランスとは、直訳すると仕事と生活の調和という意味である。これは、社会人になれば誰もが考えるべき言葉だと思う。

私は、現在入社3年目で下水処理場・浄水場・ポンプ場等の機械設備業務に携わっている。勤務年数の増加に伴い、残業時間が増えて以前に比べて定時で帰ることが少なくなってきた。入社2年目の時に結婚した同じ会社の夫も出張が増え、一緒にいる時間が急激に減りつつある。このように環境が変わりつつある今が、ワークライフバランスについて考えるべき最適な時期ではないかと思う。

ここでは、私が入社してからの3年間を振り返りながら、自分らしい「理想の働き方」について若手社員と女性社員の両方の視点で考えていきたい。

2. ワークライフバランスに対する取り組み

私が所属しているグループでは、2014年から月1回程度の頻度で技術交流会を実施しており、分野間・サイト間・世代間の技術情報交流に取り組んでいる。なかでも、2016年以降はワークライフバランスをテーマに取り入れており、働きやすい会社を目指して労働環境改善に取り組んでいる。

私が初めて参加した技術交流会では、ワークライフバランスをテーマにしてから第2回目の開催であったため、意義の理解、現在の労働環境における問題整理と改善案についての内容であった。私は、入社1ヶ月後のこの日に初めてワークライフバランスという言葉を知ったため、すぐさま「仕事はほどほどにして、プライベートを優先する」というイメージを持った。なぜなら、1日に与えられている時間が限られているため、プライベートの充実を確保するには仕事の充実が犠牲になってしまうと思ったからだ。しかし、技術交流会では、業務の効率化によりワークとライフを充実させるための時間作りをすると説明を受けた。

その後、テレビ会議を導入し、各支店の社員も含めた全員参加とすることで、様々な視点による理想の働き方について議論することが可能となった。

私は、入社した時から技術交流会があったおかげで、定時退社の意識を身につけることができた。これは、グループ全員で労働環境について定期的に議論することで、帰宅しやすい雰囲気を確実に作れていると思う。

3. 若手社員としての理想の働き方

私の会社では、「10年戦士」と言われるほど多くの経験を積まなければ一人前にはなれないため、若手社員にとっては日々覚えることだらけである。会社では定時退社が推進されている一方で、定時で帰るサイクルでは残業している人に比べて技術力に差が出てしまう。

入社3年目では、まだまだ初めての仕事が多いため、作業に時間がかかってしまう。そのうえ、任せてもらえる仕事が増えたことによって、入社1、2年目に比べて残業時間が増え、定時退社の回数が減ってきた。しかし、私は定時退社の意識をつけさせてもらったおかげで、帰れるが頑張りたいから残業するという選択肢ができた。これは、帰りたいが帰れない人と比べて精神面で大きな差だと思う。

私は、一人前になるまでの若手社員の間は、ワークに少し偏ったワークライフバランスの方が数年後の自分のためにもなるのではないかと考える。ただし、仕事を頑張るためにも、帰りたい日に帰れる環境は重要である。後輩には、私と同じように定時退社の意識を持ってもらうためにも、定時退社できる雰囲気作りを続けていきたい。

4. 女性社員としての理想の働き方

(1) 女性社員の悩みと望む環境

女性技術者は、少しずつ増加してきているとはいえ、圧倒的に男性技術者よりも人数が少ない。そのため、同性が少ないことによる悩みを多くの女性が抱えていると思う。

今年の秋、私は全国上下水道コンサルタント協会主催

の女性懇談会に参加した。懇談会では、20名程度の女性社員が参加し、会社での悩みや今後の理想の働き方について複数の班に分かれてワークショップ方式で議論した。参加者は、年齢も勤務年数も様々であったため、1年目の新入社員の方もいれば20年以上働いている管理職の方もいたが、抱えている悩みや望む環境は同じようなものであった。

私の班では、育児をしながら仕事を続けていけるのだろうか、復職した後の働き方はどうしていくのが負担にならないだろうかといった不安が最も多かった。この悩みに対して、実際に復職された女性の体験談を聞いたうえで様々な意見を出し合い、「柔軟性」が重要ではないかと考えた。私は、出産、育児、介護等に対応できる柔軟な働き方ができる会社が女性には必要だと思う。

私の会社では、今年の夏に社長と女性社員における懇談会が開催された。懇談会では、社長が全女性社員の悩みを一人一人から聞き、解決策を一緒に考案してくれた。懇談会の翌月から産休予定の社員に対しては、どのような制度があれば復職したいと思うかと質問し、社長自ら歩み寄っていた姿に私は驚いた。社長が味方になってくれている環境は、女性社員にとってとても心強く、長く働き続けることができる要因の一つになるのではないかと思う。私の会社は、女性社員が入社して良かったなと思える会社だと思う。

(2) 私の天敵

冒頭で少しお話したとおり、私は入社2年目で同期と結婚した。私の夫は、地質調査を専門とするグループに所属しているため、毎日のように地方または海外出張に行っており、平日に会社に行くことはあまりない。そのため、帰宅する日も週に1～2日程度で、新婚期間にも関わらず一人暮らし状態である。毎週のように「仕事だから仕方がない。若手同士だから今は仕事を頑張るしかない。」と思っていたが、先日事件が起きた。

残業後にお腹を空かせて誰もいない自宅のドアを開けた瞬間、私と同時にゴキブリ（以下、G）が入室したのだ。何よりも虫が嫌いな私は、空腹だったことを忘れて頭が真っ白になった。なぜなら、25年間生きてきて一度もGを倒したことがないからだ。私は、すぐさま宿泊の

用意をした後に実家へ向かった。家族には、「Gなんてどこにでもいるよ」と笑われたが、この事件が私にとってはかなりのトラウマである。

この先、夫が今の会社で仕事を続けていかなければならぬ、私が天敵のGを倒す能力を身につけなければならないため、燻蒸・燻煙方式の殺虫剤に頼りながらも対策を考えていきたい。

5. 未来予想図 I

仕事における目標達成と生活の充実、トレードオフの関係にあると思われがちだが、生活の充実なくして仕事の充実はなく、その逆もまた然りだと思う。今の私が望む未来予想図を以下に示す。

表 未来予想図 I

年齢	仕事	私生活
1年後 (26歳)	経験値稼ぎ	第1子妊娠
2年後 (27歳)	産休育休中 (>_<)sorry	第1子出産
3年後 (28歳)		第2子出産
5年後 (30歳)	技術士試験受験 ※33歳までに取得	子供保育園へ
10年後 (35歳)	管理技術者として奮闘	子供反抗期到来
20年後 (45歳)	管理職昇進	子供大学受験
30年後 (55歳)	女性社員の相談役	子供結婚
40年後 (65歳)	退職	虫の居ない 北国へ移住

まずは、若手社員としてワークに重点をおき、1日も早く一人前になれるように努力していきたい。出産後は、時々定時で帰りながらも技術者として切磋琢磨し、長く仕事を続けていけたら良いと思う。

上記を「未来予想図 I」とし、10年後に振り返ったうえで修正を加えて未来予想図 II を作成することで、よりの確な人生設計が出来上がると思う。